

ひみふくし

9

2025 Sep
No.445

企画・発行

社会福祉法人 氷見市社会福祉協議会

〒935-0025 富山県氷見市鞍川975

TEL 0766-74-8407

<http://www.himi-shakyo.jp>



この広報誌は皆さんからの会費、
共同募金の助成金により発行
されています。



笑顔でつなぐ地域の輪。 私たちに今、出来ること！

8月2日(土)に第53回ひみまつりが開催されました。

氷見高等学校の生徒が氷見青年会議所(JC)のブランディング
向上委員会と「若い世代共同参画事業」の一環で共同制作した
オリジナルワッペンと靴下を販売しました。

ブルーインパルスと鯨を掛け合わせた「ブルーインパルス」を考案
した東海笙乃さん(3年生)は、「自分たちの活動で被災された
方々が、少しでも笑顔になるお手伝いが出来ればと思います」と
話されました。

売上げは、氷見市に全額寄付され能登半島地震の復興支援と
氷見高等学校の魅力向上のために使われます。



♡CONTENTS♡

- ◆できますか？ 命を守る「避難」
～市社協職員の避難疑似体験レポート～…2ページ
- ◆毎年9月は「障害者雇用支援月間」です。…3ページ
- ◆突撃!? ぼーの調査隊!!
「災害救援ボランティアグループ 阿部んジャーズ」あべ
- ◆各種お知らせ…4ページ

毎年9月は

「障害者雇用支援月間」です。

インタビュー

この期間中は、事業主だけでなく、国民に広く周知をはかるとともに、障害者の職業的自立を支援するため、都道府県等でさまざまな啓発活動が行われています。



来館者が快適に過ごせるよう清掃中

市の教育文化センターで勤務し、職員が必要な情報をスムーズに共有できるよう庁舎間の書類を届けたり、施設周辺を清掃して、みなさんが気持ちよく過ごせる環境整備を行ったりしています。

市民からの「ありがとう」が力になる

●上岡さんにかがいました。



氷見市教育委員会
文化振興課所属
かみおか けん
上岡 健さん

障害者雇用支援月間に合わせて、実際に障害者雇用で働いている上岡さん(50代)と上司の方にふくし相談サポートセンターの職員がインタビューしました。

障害者雇用で見つけた 働きがいと支え合いの輪



市民の方からの「いつもきれいにしてくれてありがとう」という声かけが一番のやりがいです。市役所勤務は7年目を迎えますが、辞めたくなくなったことはありません。

心の安定が働く土台に

以前勤めていた会社では25年働きました。しかし、人間関係のプレッシャーや多忙な業務等が重なって心身のバランスを崩し、休職や入院を繰り返しました。

その後、障害福祉サービスの利用を経て、市役所の障害者雇用枠で働くことになりました。精神面に加え、足首の痛みもあり働く不安はありましたが、今の職場では体調が悪いときは「無理しないで休んでください」と言われます。その理解があるから、安心して働き続けられます。

今の職場は、個々の事情に寄り添い、無理を強いることのない職場環境です。給料は以前より減りましたが今の仕事の方がずっといい。心の安定こそが、長く働き続けるための土台になっていると思います。

●上司の方にかがいました。

支える側の工夫
「得意」を活かす職場づくり

職場では、上岡さんが無理なく能力を発揮できるよう、常に本人と対話することを心がけています。本人に負担をかけすぎるのは良くありませんが、新しいことに挑戦して成長する機会を奪ってしまうのも違う。そのバランスを考え、何が得意で何が苦手かを率直に話してもらいながら仕事内容を決めています。

障害の有無に関わらず、誰にでも得意なことと苦手なことがあります。その特性を理解し、お互いに支え合いながら「できること」を活かしていく働きやすい環境となるよう、柔軟な姿勢が必要だと考えています。

障害者雇用を検討している
会社の方にメッセージを
お願いします。

会社は「何でもできる人材」を求めてしまうかもしれませんが、大切なのは、その方の得意な部分に目を向け、どうすればその能力を組織のために活かせるかを一緒に考えることです。自分に合った環境でやりがいを見つけ、いきいきと働く人はたくさんいます。会社側の少しの配慮と理解が、働く人の大きな支えとなり、結果として組織全体の力にも繋がってきます。

ふくし相談サポートセンターでは、障害のある人だけでなく家族を含む周囲の方々からの相談も受け付けています

Information ふくし相談サポートセンター

〒935-8686 氷見市鞍川1060(氷見市役所内)
TEL:30-2937 FAX:30-2913 受付時間 平日8:30~17:15

*** インタビューを終えて ***

上岡さんと上司の方それぞれの言葉に、障害のある方が自分らしく働き続けるためのヒントと、職場に求められる配慮の大切さを感じました。

市社協職員の避難疑似体験レポート

災害はいつ起きてもおかしくありません。私たちにできる備えは何でしょうか。乳幼児や高齢者、障害や持病のある人の避難は、健康な大人に比べて配慮が

では、それは具体的にどんな配慮でしょうか。あなた自身や大切な人の命を守るためにできることは何でしょうか。

市社会福祉協議会の職員が実際に疑似体験した避難行動をレポートします。



想定ケース

自宅から避難所まで約1.5km
現在は夏の平日の午前中
避難所で最低1泊します



乳児と親



車いすを使っている人と
介助者



手押し車を
使っている人

※**自宅**を氷見市社会福祉会館、**避難所**を氷見市ふれあいスポーツセンターと仮定します。



海拔7m付近。車いすを押し続けた
介助者が体力の限界。これ以上進め
ない。



近道を選んだが、車いすと手押し車は砂利道で進みにくい！



親子は階段を昇る近道を選択！狭く急な階段でベビーカーと荷物1つを放棄した。



海拔10m付近。手押し車の高齢者は、ここが限界。避難所がとても遠く感じる。

疑似避難を振り返って



- 一人での避難は不安だった。
車いすやベビーカーの運搬を手伝ってもらえる
ととてもありがたい。
- 「とにかく逃げる」ために暑さ対策品を入れた
荷物を捨てたので、避難所での体調管理が
不安。**絶対に持っていくものは一つの鞆に
入れておく方が良い。**



- 腰が曲がると視界が下向きになり、**周りの状況が見えていない**ことがあった。
 - 避難所までの道のりと経過時間を考えると諦めなくなった。海拔を確認しておいて、**ひとまず目指す地点を想定しておく**と良さそう。
-
- 今回の近道はどちらも積雪で使えなくなると思う。**季節や天候も含めて経路を考えないといけない。**



突撃!? ぼーの調査隊!!

ぼ: 活動をはじめたきっかけを教えてください。

阿: 令和6年能登半島地震の復興支援で集まった市内外のボランティア活動者に「みんなで協力して困っている人の力になりたい」という想いを持っている人がたくさんいました。想いの輪が広がり、令和6年5月に団体を結成し、現在は会員40名で活動しています。

ぼ: 活動内容について教えてください。

阿: 災害ボランティア活動として灯籠の撤去や泥出し、炊き出し等をしているほか、市内外の地域活動やイベントでの屋台の出店や運営の補助をしています。また、個人宅のDIYのお手伝いをすることもあり、無理なく自分たちができることに精一杯取り組んでいます。

ぼ: 団体の活動の中で大事にしていることを教えてください。

阿: 「依頼者の声に寄り添うこと」と「笑顔を届けること」を大事にしています。被災された方を思いやる言葉かけや細かな配慮が相手の笑顔につながると思います。

ぼーの(以下、ぼ):今回は災害ボランティアやイベント協力等の活動をしている「災害救援ボランティアグループ 阿部んジャーズ」の代表、阿部光喜さん(以下、「阿」)にインタビュー!



ひみボランティア
マスコット
ぼーの



土砂の
撤去作業の
様子

ぼ: 今後の活動について教えてください。

阿: 氷見市の復興活動に関わっていくほか、県内外で大きな災害が起こったときは、被災された方のために被災地に赴いて活動したいと思っています。また、地域の中の「小さな困りごと」に応える団体になっていきたいので、地域活動やイベント等にも積極的に協力していきます。

Information 氷見市ボランティア総合センター
〒935-0011 氷見市中央町12-21 (氷見市いきいき元気館内)
TEL:74-1800 FAX:74-8055 受付時間 8:30~22:00

市社協職員の避難疑似体験レポート

防災士の総括コメント

(2ページに掲載)

津波からの避難は徒歩が推奨されています。ハザードマップで自宅や避難経路の海拔を確認し、近くの高い建物への避難を選択しても良いと思います。津波と洪水は水の威力が全く違います。津波は足首まで水が浸かると大人でもひっくり返ってしまいます。お子さん連れの場合は子どもの年齢や人数によって、今回のようにできないかもしれません。日頃からお子さんと一緒に避難所や一時避難場所、高台を目指して楽しく歩く「防災ピクニック」を試してみたいかもしれません。また、車いすの背中ポケットにロープを入れておくと、いざというとき周りの人に引っ張ってもらうことができます。



氷見市防災士
ネットワーク
副会長
佐藤 文敬氏

持出し用品 準備の心得

① 替えの利かないものが最優先!

(処方薬、お薬手帳、眼鏡など)

② 外との通信手段を確保!

(携帯電話、モバイルバッテリー、充電器など)

③ できれば心を落ち着かせるものも!

(子どもの絵本、お気に入りのタオルなど)



ご寄付をありがとうございます

令和7年7月1日~31日受入分(敬称略・受付順)
紙上を借りて厚くお礼申し上げます。

【ボランティア寄付】
匿名 68,375円

【能登半島地震緊急支援募金】

関ライオンズクラブ 580,500円

東京女子体育大学藤栄会富山支部 8,905円

地域福祉の推進に活用させていただきます



成年後見制度・日常生活自立支援事業 相談会を開催します

氷見市手をつなぐ育成会と氷見市社会福祉協議会では、標記の相談会を開催します。

本人、ご家族、支援者、どなたからの相談でも構いません。

日時 令和7年9月9日(火) 13:00~16:00
※受付は15:30まで

会場 氷見市役所1階 カンファレンス1・2

対応者 一般社団法人富山県社会福祉士会、権利擁護センター
ばあとなあ富山の会員で、実際に後見人等として活動している社会福祉士と氷見市社会福祉協議会職員

申込み あなくら社会福祉士・行政書士事務所
TEL/FAX 0766-54-5348

※相談は無料です。予約者を優先しますが、当日直接会場にお越しいただいても構いません。